

## ひと夏

森野 水琴

八月第一金曜日の夜。女はホテルのバーのカウンターでカクテルを飲んでい  
る。毎年夏休みの初日はホテルに一泊することになっている。そろそろ部屋に戻ろ  
うかと思っていたら、店員が「あちらのお客様が一杯ご馳走したいとおっしゃっ  
ています」と声をかけてきた。

テーブルの客に微笑みながら会釈すると、男は「こちらで一緒に飲みませんか」  
と勧める。異論なく女は応じる。

男は今夜から一か月の休暇をホテルで過ごすという。どこかの会社の後継ぎ  
といったところか。毎年このホテルに滞在しているらしい。

話が弾み、バーの勘定は男の部屋に付けて、さらに男の部屋で飲むことになっ  
た。

女の部屋に行き、荷物を取り出し、フロントでチェックアウトして、男の部屋  
に移動する。

互いに休暇を楽しむための滞在なので、外出する予定はない。気楽な休暇の始  
まりに改めて乾杯した。

女は毎年違うホテルに一泊している。

初対面の男との長い夜が始まる。